

時津町は「^{うちどく}家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ようじむ ねん なつごう
幼児向け 2024年 夏号



「ともだちともる」

内田 麟太郎/文 黒井 健/絵 (文研出版)

ちいさなアマガエルと、おおきなウシガエル。同じカエルの仲間のように、お互いになかなか声をかけられません。それでふたりは、時々寂しくなっていました。

とうとうこらえきれなくなったウシガエルは、勇気を出して「あのしまへ、あそびにいかないか？」とアマガエルに声をかけました。

じんわりと、心が温まる絵本。

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく (家読)」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「しごとのどうぐ」

三浦 太郎/作 (偕成社)

道具がたくさん描かれたページをめくると、その道具を使う職業の人が登場します。大工さん、仕立て屋さん、コックさんなどなど。知っているようで知らない道具もたくさんありますよ。絵本を見ながら、様々な職業について、親子で楽しくお話ししましょう。



「なにができる？」

キボリノコンノ/さく (PHP 研究社)

積み木みたいな四角い木が一つ。「とんとん、かんかん、ぎこぎこ、さくさく」なんとびっくり、プルプルのゼリーができあがり。他にも、木から作られたとは思えない、じゅくじゅくやふわふわの食べ物に大変身!

次はなにができるのだろう?ワクワクする絵本です。



「あめがふってきたよ」

メアリー・サーフォソ/文 ケイコ・ナラハシ/絵 木坂 涼/訳 (徳間書店)

雨の日はきれい?外であそべないから?じゃあ、耳をすましてごらんなさい。雨はいろんな音をもっています。「ぽつぽつ」「ぴちゃぴちゃ」。やねにあたって「とんとんとん」。水たまりになって「じゃばーっ」。

ね、雨ってとてもおしゃべりでしょう? 雨の日が少しだけすきになるかも!



「たすけてー」

りとう ようい/作・絵 (金の星社)

イボイノシシのかあちゃんが、サバンナの外敵から可愛い2匹の子を守るために大奮闘。

ハイエナにチーター、おまけにワシまで。次から次へと襲ってくるピンチ。どうするかあちゃん!ダイナミックでユーモラスな絵に引き込まれます。



「ガンピーさんのふなあそび」

ジョン・バーニンガム/さく みつよし なつや/やく (ほるぷ出版)

ガンピーさんが小舟にのっていると、子どもやたくさんの動物たちが乗り込んできました。ネコ、ウサギ、ヒツジ、ページが進むごとに動物が増えていき、小舟は満員に。白黒とカラーの挿絵のコントラストがおもしろいです。夏にぴったりなふなあそび。ラストは、こうご期待!

発行：時津町立時津図書館